仙台空港 月内再開

4月中に一部国内線で運航が再開される見通しとなった仙台空港のターミナルビル＝5日午後1時50分ごろ

一部国内線 運航へ

東日本大震災の大津波で冠水した仙台空港は、今月中に一部国内線で運航を再開する見通しとなった。東北新幹線は4月中旬までに運転を全面再開する予定で、宮城県と全国主要都市をつなぐ二つの動脈の復旧は、復興に向けた動きを加速させそうだ。

国土交通省の布村浩一官房政務官が5日、宮城県庁内で明らかにした。

市村政務官によると、仙台空港はターミナルビル1階が冠水し、管制システムの計器類が故障。現在、設備の交換作業を行っている。再開は一部国内線に限られ、関東以西や北海道の路線が中心になるとみられる。

市村政務官は「完全な復旧には、まだ時間がかかるが、大型運休前に出ていきたい」と、全国の地を訪れるための開港である空港を早期復旧できたい。路線網は当面、山形、花巻空港と連携することは、大いに意味がある」と話した。

震災発生後、仙台空港では自衛隊と米軍が300メートル滑走路のがれきやガラスは破損し、バス乗り場の案内板も折れ曲がるなど、津波の爪痕が残っている。

警察庁の5日午後8時現在のまとめで、宮城、岩手、福島県の12都道府県の1万2433人、家族が警察に届けた行方不明者は宮城県沿岸の1万1530人で、死者・不明者は計2万7530人となった。宮城県は、宮城県災害対策本部によると、県内約500カ所の避難所に約6万4000人が身を寄せている。

道から静岡県まで8都道府県の約230カ所の避難所に約1万3000人が生活しているという。宮城県は、県内約75カ所の遺体安置所で、約1600人が検視を行っている。

死者7571人 宮城

東日本大震災の死者は、宮城県で7571人（6312人）、岩手県で3643人（4502人）、福島県で1157人（4335人）、全国で12431人（15153人）となった。

（5日現在・警察庁まとめ）

再生へ 心ひとつに

ターミナルビル周辺では、5日も土砂やがれきの撤去が急ピッチで行われた。復旧作業は進んでいるものの、ビル一階の窓ガラスは破損し、バス乗り場の案内板も折れ曲がり、搬送車、緊急支援物資を運搬する軍用機が離着陸している。

死者数（行方不明者数）

宮城	7571人（6312人）
岩手	3643人（4502人）
福島	1157人（4335人）
全国	12431人（15153人）

（5日現在・警察庁まとめ）

宮城沿岸 操業制限

漁船・養殖 2カ月間

調整委検討

宮城県沿岸漁業調整委員会は5日、漁業に基づき、養殖業をさる宮城県沿岸での漁業を含む宮城県制限する方向で検討に入った。県漁協は同日、大津波の影響で、水産物の安全性が十分確保できないとして、養殖業と漁船漁業の操業自粛を決定した。

県漁協は5日の経営管理委員会で、浅い海域で漁船操業や養殖を5月末までの2カ月間、自粛することを決めた。多くの漁業者が死亡・行方不明になって捜索活動を行う必要があるとの上、各漁場の調整委に沿岸部での操業は5月、漁業に基づく操業を利限する指示の発動を打診。制限により自粛の実効性を担保する。

県内養殖業者に、県内約80カ所の養殖筏（いかだ）の操業を2カ月間、自粛するよう指示の発動を県は事務局の宮城海区漁業調整委員会は、漁業調整委員会は、漁業法に基づく操業制限する方針。知事が管轄する海区ごとに、県内の操業者に、県内約80カ所の養殖筏などが対象になるとみられる。制限期間は、県漁協の自粛期間を踏まえ、2カ月とする見込みだ。

農林水産大臣が管轄する宮城県沖合の沖合底引き網、大型中型巻き網漁船などについては、漁種ごとの業界団体に協力を要請する。

県内の水産業は漁船の損壊や養殖筏の壊滅的被害で、既に大部分で操業が困難になっており、今回の制限に伴う消費者への影響はないとみられる。

賠償金仮払い準備

福島第1事故 東電、月内にも

東電福島第一原発の事故で被害を受けた漁業や農業に対し、損害賠償額が確定する前に仮払金を支払う準備を進めていることが5日、分かった。原子力損害賠償制度に基づくもので、事故の長期化による生活への影響を避けるのが狙い。近く、相談の窓口を設置する。仮払金額は国と協議して決めるが、今月中にも実施する方向だ。

東電は、仮払いとは別に、福島第一原発から半径20キロ、第2原発から10キロ範囲内で、避難指示の出た9市町村に対して3月31日から、一律2千万円の見舞金の支払いを開始している。対象範囲のうち、福島県浪江町は受け取り拒否している。

住民や農家に対し、損害賠償額が確定する前に仮払金を支払う準備を進めていることが5日、分かった。原子力損害賠償制度に基づくもので、東電に支払い準備を指示したことを明らかにした。

「具体的な金額が決定事故の長期化による生活への影響を避けるのが狙い。近く、相談の窓口を設置する。仮払金額は国と協議して決めるが、今月中にも実施する方向だ。

東電は、仮払いとは別に、福島第一原発から半径20キロ、第2原発から10キロ範囲内で、避難指示の出た9市町村に対して3月31日から、一律2千万円の見舞金の支払いを開始している。対象範囲のうち、福島県浪江町は受け取り拒否している。

住民は約8万人に上る。事故で職場を失ったり、放射性物質の検出で国から出荷制限を受けた農家は約5万人に上る。

東電は、仮払いを支援する方向で、支援金の一部を前倒しして世帯当たり300万円程度を目安に検討する方向。数十万円となる可能性もある。

福島第一原発の事故で、流出拡大防止のため、避難指示の対象となった住民は約8万人に上る。早期補償が課題となっている。

海江田万履経済産業相は5日の閣議後の記者会見で、東電に支払い準備を指示したことを明らかにした。

「具体的な金額が決定されたわけではないが、ある程度まとまった金額を、できるところから支給する必要がある」と早期対応の必要との認識を示した。

仮払金額は、津波の被害者について、被災者生活再建支援法に基づいて、支援金の一部を前倒しして世帯当たり300万円などに右を敷き詰めた「砕石層」に汚染水が入り込み、亀裂から漏れていることを確認した。

福島第一原発の事故で、流出拡大防止のため、

2号機 漏水阻止へ 薬剤注入

福島第一原発2号機の取水口付近で高濃度の放射性物質を含む水が少しだけ流れ出ている問題で、東京電力は5日、取水口そばにある作業ピット内の穴（ピット）の下で、数十万トンの高濃度汚染水が流れ出ていることを確認した。

取水口付近の亀裂は、「砕石層」に汚染水が入り込み、亀裂から漏れていることを確認した。

石の隙間を埋める特殊な薬剤を注入。「流量は減少したように見える」（経済産業省原子力安全・保安院は同日、1～3号機のタービン建屋の立て坑にたまっている高濃度汚染水推定の総量は約6万トンと推定されると明らかにした。

汚染水漏えい防止の作業では、ピット付近の地面に穴を開け、砕石層に着色用の入浴剤を投入。亀裂から着色水が流れ、汚染水の経路が確認された。隙間を埋める目的で、「水ガラス」という薬剤と、硬さを調整する別の薬を混ぜて注入した。

取水口付近の亀裂は、燃料が損傷した2号機の原子炉から出た汚染水が、海に流れ込む経路の一つとみられており、取水口付近で2日に採取した水から、法令の濃度限度の750万倍に当たる放射性ヨウ素131を検出。

「その上流」に当たる2号機の地下に、亀裂から流れ出る水の濃度は、さらに高い同520万倍の4万5千倍と推定されるとの見方を示した。

ピット内部などは海と通じているとみられるが、比較されてはいるが、比較すると桁違いに低い。

東電は、「低レベルの汚染水について、魚などを食べ続けても人体への影響は小さいとしているが、含まれる放射性物質の濃度は最大で濃度限度の500倍。

河北春秋

仙台市在住の水彩画家古山拓さん48の個展が同市青葉区国分町の画廊画廊で開かれている。

メーンの「明日に」は、港へ戻ってほっとした様子の漁船を優しく表現した作品。▼陸の港を好んで描いてきた。厳しい海で生きている人のたくましさをダイナミックに感じるからだという。大型漁船の協で大人が談笑する「気仙沼風景」、夕刻に小舟が浮かぶ「遠い波音」▼それは3月13日開始の画業20周年感謝個展で展示されるはずだった。その直前の大津波。県協の会員の被災者の神経を逆なでするのではないかと、個展延期を決めたが、震災後ほどなく近所の精肉店や鮮魚店が営業を再開するのを見て、画家のスイッチが動く。「自分は絵を見てもらうのが仕事。三陸を描いてきて、今発表しないと後悔する」▼内容はそのまま、個展は震災復興支援企画と趣旨を変えて3月23日にスタートした。（4月分担当・佐々木）

東日本大震災関連記事

2面 妊婦と乳幼児 村外避難
3面 漁業者 いら立ち頂点
4面 世界で原発後退加速
5面 応援メッセージ
7面 避難者 温かく見守って
10・11面 生活関連情報
12面 亡くなった東北の方々
16面 被災校が引っ越し準備
17面 命懸け誘導 女性救う
18面 陸前高田で仮設の抽選
19面 津波の怖さ写し発信
20面 戸籍流失 復興へ足かせ

おことわり

東日本大震災の影響で本日付朝刊は別態勢紙面としました。部地区で配達遅れが発生する場合があります。ご了承願います。

河北新報社

きょうの天気

	天気	降水確率	最高	最低
仙台	○	0	17	3
青森	○	0	15	4
盛岡	○	0	14	0
秋田	○	0	12	2
山形	○	0	16	2
福島	○	0	18	4
札幌	○	0	13	3
東京	○	0	18	7
新潟	○	0	14	3
名古屋	○	0	20	6
大阪	○	0	19	7
広島	○	0	19	6
高松	○	0	20	8
福岡	○	10	18	8
那覇	○	10	21	16

予想気温は上・下段とも最高・下段は最低

河北新報

4月6日（水）

河北新報社
仙台市青葉区本町1-2-28
（郵便番号 980-8600）

「東」は、未来

電話（022）211
読者相談室 1447
報道 部1127 販売 部1304
スポーツ部1130 営業 部1318
夕刊編集部1146 営業管理部1312
生活文化部1132 事業 部1332
総合案内（022）211-1111
ご購読申し込みは
0120-09-3746

東北の酒 飲んで支援を

「経済活動を止めないで」 動画サイトで呼び掛け

東日本大震災でイベントなどの自粛ムードが全国的に強まる中、被災地・岩手県の酒造3社が、インターネットの動画投稿サイト「ユーチューブ」への投稿で、花見を自粛しないよう呼び掛けた。

岩手・酒造3社

「被災地岩手から花見をお願い」と題し、二戸市の「南部美人」と盛岡市の「月の輪」が5日にそれぞれ投稿した。閲覧件数は5日午後5時現在、3社で計約13万回に上っている。

閲覧約13万回を超えた「南部美人」の動画では、5代目蔵元の久慈浩介専務（38）が「酒を飲んでる場合ではないというのが東北の現状。だがこのままではわれわれも経済的な2次被害を受ける。人々を元気づけるのが日本酒の役目だ。酒を飲むことで東北を応援してほしい」と述べた。

「月の輪」の意見を寄せた久慈専務は「経済活動が止まると支援も向かない。被災県の人間でないと言えないと思い、仲間に投稿を決意した」と説明した。

花見をめぐっては、東京都が自粛を呼び掛けて、波紋を広げている。岩手県の達増拓也知事は4日の定例記者会見で、花見について「被災地のまではわれわれも経済的な2次被害を受ける。人々を元気づけるのが日本酒の役目だ。酒を飲むことで東北を応援してほしい」と述べた。

閲覧した人の多くが賛同の意見を寄せた。久慈専務は「経済活動が止まると支援も向かない。被災県の人間でないと言えないと思い、仲間に投稿を決意した」と説明した。

花見をめぐっては、東京都が自粛を呼び掛けて、波紋を広げている。岩手県の達増拓也知事は4日の定例記者会見で、花見について「被災地の復興支援のためにも力強い経済が不可欠。経済が活性化するようにしてもらえればいい」と述べた。

全国包む自粛ムード

被災地を元気づけたい

名称変更や規模の縮小 イベント開催へ知恵絞る

東北・桜の名所

東日本大震災を受け、東北の桜の名所がイベントの見直しを進めている。夜間照明などの演出を抑えるとともに、被災地支援も打ち出そうと知恵を絞る。「お祭り気分になれない」と揺れる気持ちの中で、関係者は開花のシーズンを迎える。

東北地方の「角館桜まつり」は22日の開幕を前に、がんばろう東北、角館の桜と名称変更した。地元の角館町観光協会は「被災者の現状を思うと、『まつり』の言葉は使えないかりに、『チャリティーイベントを計画している』と語る。

イベント期間は例年十六夜の桜の名所がライトアップされる。

例年1万人が訪れる仙北市の「角館武家屋敷通り」は、夜間のライトアップの規模を縮小し、終了時間も2時間前倒しする。

東北最多の250万人を集める弘前市の「弘前さくらまつり」も、ライトアップ時間を例年より1時間繰り上げる。23日の開幕に向け、被災者を会場に招待するなど復興支援の企画が討されている。

北上市の展勝地公園でも、規模を縮小し、終了時間も2時間前倒しする。

東北最多の250万人を集める弘前市の「弘前さくらまつり」も、ライトアップ時間を例年より1時間繰り上げる。23日の開幕に向け、被災者を会場に招待するなど復興支援の企画が討されている。

北上展勝地公園では、「まつりの運営などのイベント中止が検討されている。

北上市観光協会は「まつりの名称変更や、北上川での遊覧船運航などのイベントも中止が検討されている。

弘前市旅館ホテル組長の福士圭介さん（38）は「4月の宿泊予約はまだ例年の半分程度。自粛ムードも理解できるが、被災地を元気づけ、東北なので整えたい」と話している。

「被災地岩手から花見をお願い」と題し、二戸市の「南部美人」と盛岡市の「月の輪」が5日にそれぞれ投稿した。閲覧件数は5日午後5時現在、3社で計約13万回に上っている。

閲覧約13万回を超えた「南部美人」の動画では、5代目蔵元の久慈浩介専務（38）が「酒を飲んでる場合ではないというのが東北の現状。だがこのままではわれわれも経済的な2次被害を受ける。人々を元気づけるのが日本酒の役目だ。酒を飲むことで東北を応援してほしい」と述べた。

「月の輪」の意見を寄せた久慈専務は「経済活動が止まると支援も向かない。被災県の人間でないと言えないと思い、仲間に投稿を決意した」と説明した。

花見をめぐっては、東京都が自粛を呼び掛けて、波紋を広げている。岩手県の達増拓也知事は4日の定例記者会見で、花見について「被災地の復興支援のためにも力強い経済が不可欠。経済が活性化するようにしてもらえればいい」と述べた。

陸前高田市

仮設住宅 入居36戸決定

先着工分 申請1160世帯 抽選

陸前高田市の第一中グ（仮設住宅団の抽選が）ラウンドに先行着工した5日、学校給食センター（仮）で行われ、戸羽太市長が箱の中から番号札を引いた。

市によると、約1800世帯が仮設住宅への入居を申し込んでおり、先行着工の36戸は1160世帯の申し込みがあった。

今回は高齢者や障害者、母子家庭の優先枠と、一般枠が半々の各5戸。一般枠では960世帯、優先枠では960世帯が申し込んでいた。

戸羽市長は「住民の安心感という点で、少しずつ前進している。できるだけ早く、必要な分を建設したい」と話した。

仮設住宅の抽選を行う戸羽市長

地元に愛着強く 物資支給に不安

申し込み 予想下回る

被災地で初めて仮設住宅への入居抽選が行われた陸前高田市では、これまでの入居申し込みが4000戸の建設を求めているのに対し、入居を申し込んでいるのは約1800世帯にとどまる。背景には、住み慣れた地区への愛着や必要な物資が支給されなくなる不安など、避難住民のさまざまな事情がある。

市第一中グラウンドには先行着工された仮設住宅への入居抽選が行われた。陸前高田市では、これまでの入居申し込みが4000戸の建設を求めているのに対し、入居を申し込んでいるのは約1800世帯にとどまる。背景には、住み慣れた地区への愛着や必要な物資が支給されなくなる不安など、避難住民のさまざまな事情がある。

市第一中グラウンドには先行着工された仮設住宅への入居抽選が行われた。陸前高田市では、これまでの入居申し込みが4000戸の建設を求めているのに対し、入居を申し込んでいるのは約1800世帯にとどまる。背景には、住み慣れた地区への愛着や必要な物資が支給されなくなる不安など、避難住民のさまざまな事情がある。

無職高橋上雄さん（63）は高田地区に住んでいるが、家族とともに仮設住宅を希望しないと話している。

「仮設住宅では家族全員で暮らせないとして、住田町の遠野市に物件を探している人もいるという。

震災で約3200戸が全壊した陸前高田市は、必要な仮設住宅を4400戸と見込み、県に建設を要望した。

市の想定より申し込みが少ないことについて、戸羽太市長は「住民が地元を離れたがらないということなのだろう。今後あらためて住民の意向を調査し、ある程度、安心してもらえるように用地選定などに反映させたい」と話している。

（原口靖志、山口速也、関俊哉）

石巻・渡波小

校舎にプレイルーム 子の歓声戻る

理科室に開設されたプレイルーム。漫画やぬいぐるみが用意され、子どもたちの歓声が戻った＝4日、石巻市渡波小

約700人が避難する石巻市渡波小、在日米軍が校庭のがれきを撤去し、非政府組織（NGO）のメンバーが校舎に「プレイルーム」を開設して、避難所の子どもたちの歓声が戻った。ただ、児童433人のうち7人が犠牲になり、7個のランドセルは職員室で帰り主を待ち続けている。

4日、理科室に開設されたプレイルーム。「いくよー！」。石巻市の三陸沖を震源とする地震で、校舎に設けられた臨時職員室の元気な声が響く。がれきが取り除かれ、渡波小4年の安部七海さん（9）は「やっと校庭で遊べる」と白い歯を見せた。しかし、一緒に遊べるはずのクラスの友だち一人を津波で失ったという。

堺章彦教諭（50）の表情も硬い。地震後に保護者が連れて帰った児童の遺体で見つかったからだ。

「1階が水没し、2階に避難してもずぶぬれになった。星を眺めるのが2人の日課になった。

堺教頭は「言葉を掛けるのが今も言えないでいる。」（山崎敦）

阪神大震災で受けた支援 つないで

男性2人、散髪ボランティア

塩釜・浦戸諸島

新谷さんの散髪ボランティアに避難者の表情が緩んだ＝5日午後2時ごろ、塩釜市の野々島

宮城県塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1週間は食料と2週間後を風呂、3週間後には髪を切りたくなる」と自らの体験から被災者の気持ちを推し量った。

2人は5日、塩釜市の浦戸諸島の野々島を訪れ、浦戸一小に避難する約40人の髪を切った。鈴木ひろえさん（73）は「気分爽快になりました」と笑顔を見せた。

西山さんと新谷さんは、阪神大震災で働いていた宝容院を失った。励みになったのが全国からの支援だったという。

「まずは動こうと思い、店は従業員に任せて支援物資を集めた」と西山さん。新谷さんは震災後、1

汚染水貯留へ メガフロート出港

静岡

福島第一原発事故で、建屋内にたまった放射性物質を含む大量の水を貯留するため、静岡市が東京電力に譲渡した土の浮島「メガフロート」が5日午後3時すぎ、清水港の横浜港に向けて清水港を出発した。

これまで清水港で海釣り公園として使われていた。内部の空洞に約1万2千の水を入れてもまないという。汚染水をためる。水がめ」として期待されている。電線は当初、3日にもえい航する予定だったが、天候不順のため延期されていた。

バランスよく水をためるため、内部の仕切りを取り去る工事を横浜港で実施した後、福島第一原発に向かうという。

福島第一原発の汚染水を貯留するため、横浜港に向かってえい航されるメガフロート（手前中央）＝5日午後、静岡市清水区の清水港

茨城漁船 水揚げ拒否

銚子市漁協、国が改善指導

茨城県神栖市のはさき」どの魚を千葉県の銚子港漁協所属の漁船が5日、同県沖で捕れたキンメなどの魚を千葉県の銚子港に水揚げしようとして断られたことが、茨城、千葉県水産庁などの関係者への取材で分かった。

銚子市漁協は、茨城県の卸売業者が「市場法に違反する可能性があるとして、銚子港で取り扱いを禁じた」と説明した。

市場を運営する銚子市漁協は「千葉県の漁獲量を通じて改善を指導」、県も漁協側に慎重な対応を求めた。

福島第一原発事故による、放射性物質拡散の影響がはっきりするまで、茨城漁協に千葉県の漁獲物を受け入れる要請を続けるとしている。

福島県浜通り 西一南東の風

気象庁によると、福島原発のある福島県浜通り中部は6日、西寄りの風、日中は最東の風1～5メートルと予想される。時間帯によって、海側から陸地側に向かって弱い風が吹くとみられる。

6日は高気圧に覆われて晴れ、まとまった雨は見込まれていない。

県以北の魚の水揚げを控えるよう、3月25日に同県の漁協などにファクスで要請、それ以降に魚が持ち込まれたケースは、今回が初めてという。

さらに、同北茨城市の沖で4月1日に採取したコウナゴ（イカナゴの稚魚）から1キロ当たり4800Bqの放射性ヨウ素が検出されたため、引き続き水揚げを控えるよう要請を続けるとしている。

「明るい笑顔で日本を元気に」―小中高生にメッセージ

首相と文科相

「忘れないでください」として原発事故や被災地で活動する消防士、自衛官、電力会社員、警察官、医師、看護師を列挙。「何より、本当に命がけでみなさんを守ってくれた先生たちの姿を忘れないでください」と呼び、「みなさんも他人のために働ける人になってください」と訴えた。

最後に「日本の未来はみなさんにかかっています。明るい笑顔で日本を元気にしてください」と結んだ。

高木文科相はまた、全国の教職員向けに「小さな声、弱い教育の出発点、全ての子どもたちのために結集してください」と呼び掛けるメッセージも出した。

東日本大震災の被災地などで学校の新学期が始まることを受け、菅直人首相と高木義明文部科学相は6日付で、小中高校生向けのメッセージを出した。被災地の児童生徒を「みなさんは決して一人ではありません」と励まし、被災地ではない地域の子どもに対しては「みなさんの学校に避難してきた仲間を温かく迎えてあげてください」と呼び掛けた。

（17面にメッセージ要旨）

「生徒が避難所で住民を手伝い、節電を募金をしている」と感謝の気持ちを伝えた。「その思いやりがあれば日本はもっと素晴らしい国になる」とした。

津波の怖さ写し発信

流れた古里にピント

写真家　藤枝　宏さん（53）＝釜石市

ふんばる　3・11大震災

砂に埋もれた田んぼに撮影する藤枝さん。「釜石の被災を復興を記録し続けたい」＝釜石市鵜住居町

釜石市の中心部から北10キロの沿岸部に広がる鵜住居（うのすまい）町。指定避難所の同地区防災センターに逃げた住民も、マグニチュード9・0の大津波にのまれ、約30人が死亡、多くの行方不明者が出た。市内のフリーカメラマン藤枝宏さん（53）は自宅震災後初めてカメラを手に取り、現地を訪ねた。

「カシャ、カシャ。レンズに映っているのは、砂まみれのボロボロに埋もれ、がれきが積もった田んぼの畑。大好きな古里がこんなにされてしまって、どうしようもない。でもこれを撮影しなければ、この光景を残さなければ、と思った。」

トンボの希少種ヤマダラヤンマが市内で見られるのは、田園が広がる鵜住居町ぐらい。高校2年で初めてカメラを始めたきっかけも、マダラヤンマとの出合いだった。だが、思い通りに撮れない。「真剣なのに、どうしてこんなに下手なのか」と悩んだ。

出会いは、自然の美しさを重視する写真集などで、プロとして独学で技術を磨いてきた。「腕となり、立ち位置を考えて、釜石の街を撮っていこう」と思い直した。

3月11日、海に近い自宅が激震に揺れた。「絶対に津波が来る。デジカメを2台を抱ぎ、妻久美子さん（50）と脚の具合が悪い母ユキさん（81）を急いで車に乗せ、高台に逃れた。

津波で自宅は跡形もなく流され、釜石の街並みが話題になったフィルムも失われたしかし、なぜか不思議と前向き心象舎」。1996年、釜石市大町1丁目の自宅と住居（うのすまい）町の自宅の2カ所を拠点に活動。「東京の大学を卒業後、郷里に戻ってホテルに勤め、30代から本格的に写真の勉強に取り組んだ。河北写真展などで入選を重ねる中、自宅の暗室で独学で技術を磨いてきた。」

もうとも流され、釜石の街並みが話題になったフィルムも失われたしかし、なぜか不思議と前向きになれたという。

「撮影は、その後の、心象舎のホームページ（HP）を写真と文章で紹介する。『自然豊かで青は高い』と思わせる、『三陸地方の風景を会し、無事を喜び合った』と知人から『早く写真を見せて』と言われる。新しいパソコンはもうすぐ届く。HPも冬月中旬に更新するつもりだ。

「被災の状況を隅から隅まで撮って記録する。津波の怖さを後世に伝えたい。それが、地元でカメラマンとして生きていく私の使命だと思う」（吉江圭介）

「フォトライブラリー」

■

母、妻、次女、長男の家族は無事で、今はアパート住まい。「命が助かっただけでも良かったの目で見かったか」と思わないと罰が当たる。

自分たちが置かれた境遇を、釜石の歴史に重ねる。明治29（1896）年と昭和8（1933）年の三陸大津波、太平洋戦争の艦砲射撃。

企業かっぱスターやカレンダーの写真の依頼を受け、三陸地方の風景を撮り、「自然豊かで青は高い」の一つ。

パソコンは津波とさらわれ、HPの更新は止まったまま。津波の後に再び沿岸に出た。

「石巻市にはなると、市内に設置されている防災無線は約400基。うち合併前の旧市内の約4基は使えた。気象庁は東日本大震災の本震があった11日以来の津波注意報を宮城県沿岸に出した

(第三種郵便物認可)

戸籍流失 地籍未整備

復興へ足かせ

東日本大震災の津波により、宮城県の女川、南三陸両町では、住民の戸籍データが消失した。各被災地では、住宅などが根こそぎ流され、土地の境界線も分からなくなっている。戸籍と地籍の問題は今後、住民の生活に混乱を招き、復興に向けた動の障害となる可能性もある。

土台だけが残った民家。境界はがれきに埋もれ判別できない =仙台市若林区荒浜

宮城 住民異動39日分空白 南三陸町
データサーバー水没 女川町

戸籍の原本データが失い、届け書が残る10年4月～11年1月分の約1100人分の戸籍副本に、10年4月～11年1月の届け書が残されており、完全消滅だけは免れた。

だが、震災直前の2月1日～3月11日に届け出ざるを得ない。

女川町も、役場の地下1階にあった戸籍や住民票のデータサーバーが水没。システム会社に復元を依頼すると、「元に戻る可能性は10%以下」と言われた。

やはり、仙台法務局石巻支局に残された10年3月末までの戸籍副本と届け書だけが頼みの綱だ。

阿部一正町総務課長は「出生、死亡、婚姻、転入出など、戸籍に関係する情報が詰まっている。復興の一歩として何とか復元したい」と話す。

住民の戸籍異動状況を他の自治体に呼び掛けて追跡することも考えているが、「どこまでできるか未知数」という。

不完全な戸籍データによるトラブルも懸念される。女川町では、10年4月以降に亡くなった住民が戸籍副本から死亡除籍されていないため、震災後の住民票に記載されてしまったケースがあった。

南三陸町も、10年3月末の内容は正式な証明にはならず、相続登記などができなくなる」と危ぶむ。

戸籍事務を扱う仙台法務局戸籍課は「戸籍の再製は今まで例がない。復元作業がいつ終わるのか、めどは全くついない」と困惑している。

(加藤健太郎、吉田浩史)

復元 めど立たず

女川町が女川二小の教室で再開した窓口業務は、住民票の発行などごく一部にとどまっている

土地境界の紛争懸念

調査進行率に地域格差

震災後初めて自宅の様子を見に行った、建物はない土台は残っていた。

「ここにはもう住めない」と、住む気がないが、自分の土地がこの先どうなるのかは気になる。隣家との境界が分からない。

荒浜以南の沿岸地域の土地で調査が全く手付かずだという。

1年前には前原誠司国土交通相(当時)が「災害復旧時に支障が出る」と懸念を表明、市町村に早期の調査を求めていた。

明確になった地所は数知れない。

地震などで土地の形状が変わってしまった場合、境界の復元は「土地の境界を決める直さなければならない。だが、正時に作られ、境界形状、面積が現実と異なるケースが多い」と説明する。

仙台市は、地籍がなくても「道路台帳で公共の用地の位置は把握できる」と言うが、民間同士の境界は「トラブルになるケースも考えられる」。

一方、国土地理院は震災で地盤沢などの地殻変動が起き、基準点の位置もずれたとして、被災地全域で測量をやり直すという。

(若林雅人)

地籍調査

市町村の事務で、一筆ごとに土地の所有者、地番、地目を調べ、境界の位置と面積を測量。地籍図と地図簿に記入して地方法務局に送付される。地籍簿に基づいて土地登記の内容が改められ、地図簿は土地の権利を証明するための図面となる。

地籍調査の進行率(%)

宮城県	88
仙台市	29
多賀城市	79
塩釜市	100
東松島市	92
石巻市	95
気仙沼市	86
青森県	92
岩手県	83
秋田県	55
山形県	48
福島県	59
全国	49

(注)国土交通省調べ。2010年3月末現在

を復元するときに必要な地籍は、実は市町村で調査の進行度合いに大きな差がある。「地盤沈下などで基準点がずれた場所も多い。復元作業は難航も予想される。

津波で壊滅的な被害を受けた仙台市若林区荒浜の男性(41)は3月27日、がれきや土砂を取り除いた後、土地の境界がどこかを見極めようとしていた。

「土地の境界がずれて浮き上がる。あらためて境界を決める直さなければならない。だが、正時に作られ、境界形状、面積が現実と異なるケースが多い」と説明する。

仙台市は、地籍がなくても「道路台帳で公共の用地の位置は把握できる」と言うが、民間同士の境界は「トラブルになるケースも考えられる」。

一方、国土地理院は震災で地盤沢などの地殻変動が起き、基準点の位置もずれたとして、被災地全域で測量をやり直すという。

(若林雅人)

避難所いま

南三陸町馬場中山生活センター

避難者数 80人(5日正午現在)
避難地区 南三陸町歌津の馬場、中山など

住所 宮城県南三陸町歌津馬場85の2

●及川咲季さん(11)=南三陸町歌津馬場
日中は親が片付けをしていて、友達と遊んだり猫とじゃれ合ったりしている。早く学校が始まってほしい。

●及川菫稀さん(15)=南三陸町歌津馬場
志津川高の2年生。中学校の卒業式が予定されているので、友達に会いたい。

●千葉康平さん(19)=南三陸町歌津馬場
進学で4月下旬に仙台市へ行く。避難所を離れるのは移るので、通うのが大変。

●及川なつ子さん(65)=南三陸町歌津馬場
気仙沼市の病院に通院していたが、列車もバスもなくて通えない。週回の先生が頼りだ。

●町歌津馬場
お友達や近所のお姉さんと、毎日トランプをして遊ぶ。早く小学校に行って漢字50個を覚えたい。

●三浦司さん(18)=南三陸町歌津馬場
実家の片付けをしている。

●及川栄子さん(68)=南三陸町歌津馬場
かれきを早く片付けてほしい。気候が暖かくなると遺体が出てくるかもしれない。

●千葉あや子さん(68)=南三陸町歌津馬場
町の状態になったけれど、地域の絆が強い。みんなで一緒に暮らしたい。

●部勝美さん(67)=南三陸町歌津馬場
何もかも失った。全くゼロからの出発になる。

●及川一子さん(50)=南三陸町歌津馬場
生活用水として利用してきた清水の井戸水に、津波で塩分が混じって可能性がある。

●及川マキさん(50)=南三陸町歌津馬場
股関節を脱臼し、膝を曲げるのがつらい。左脚の状態はどんどん悪化しており、避難所での生活は大変だ。

●町歌津馬場
地域のガソリンスタンドに燃料が来ない。動きたくても動けず、もどかしい。仮設住宅を早く着工してほしい。

●千葉たすけさん(79)=南三陸町歌津馬場
ご先祖様から受け継いだ土地を離れるわけにはいかない。避難所は寒さが残る。1刻も早く仮設住宅を建ててほしい。

●木綿恵子さん(50)=石巻市南浜町1丁目
全て失った家族、親類は無事だった。それだけで幸せ。後ろを向いている方向を見ないでいてもらえる。

●畠山サダ子さん(67)=石巻市門脇町3丁目
なすすべなく家が破壊された。本当に人生がこれでおしまいかと思う。この惨状を目の当たりにした。

●佐々木恵子さん(38)=石巻市中央2丁目
所以外にも情報や物資を届けて。

●阿部瑞生さん(13)=石巻市南浜町4丁目
自宅が流され、2階部分だけ見つかった。自分の部屋に写真や服が残っていた。何か隠部がも見つけたい。

●亀井海子さん(18)=石巻市築山2丁目
配給のおにぎりやパン冷たい温かいものが食べたい。冷たい水ばかり飲めないので、腸の調子が悪い。

●三浦かつさん(81)=石巻市
後ろ髪を引かれる思いだが、親は頑張れと応援してくれる。

●及川国太郎さん(78)=南三陸町歌津馬場
志津川地区の情報がスムーズにいのが不満。仮設住宅には同じ地域のみんなが集まってくれるようにしてほしい。

●三浦まりあさん(6)=南三陸町歌津馬場
お友達や近所のお姉さんと、毎日トランプをして遊ぶ。早く小学校に行って漢字50個を覚えたい。

●及川雷真さん(74)=南三陸町歌津馬場
就職先のスーパーが8月末に入社を待ってくれた。就職しても時折地元に戻って来たい。

●及川ひとみさん(49)=南三陸町歌津馬場
今後が心配。地元に残り地域のみんなと暮らしたい。

●及川マキさん(50)=南三陸町歌津馬場
生活用水として利用してきた清水の井戸水に、津波で塩分が混じって可能性がある。

●部勝美さん(67)=南三陸町歌津馬場
何もかも失った。全くゼロからの出発になる。

●千葉小太郎さん(70)=南三陸町歌津馬場
メカブやホヤの水産加工販売を手掛けていた。工場は流された。もう一度立て直したい。地域の復興を後押ししたい。

●及川洋司さん(68)=南三陸町歌津馬場
地域のガソリンスタンドに燃料が来ない。動きたくても動けず、もどかしい。仮設住宅を早く着工してほしい。

●及川マキさん(50)=南三陸町歌津馬場
メカブやホヤの水産加工販売を手掛けていた。工場は流された。もう一度立て直したい。地域の復興を後押ししたい。

石巻中

避難者数 434人(5日午前11時現在)
避難地区 石巻市大街道東、築山、南浜町など

住所 石巻市泉町4丁目7の15

●阿部姫麦さん(5)=石巻市中
「やだー、できたよ。」子どもたちが3日、ペットボトルで作ったけん玉やひょうたんぼを手に夢中で遊んでいた。おもちゃの作り方を指導したのは、金沢市のボランティア高砂二郎さん(67)だ。

高砂さんは3月19日に宮城県入りし、車中泊を繰り返しながら避難所を巡っている。石巻では18カ所目。阪神大震災や新潟県中越地震でも「子どもが楽しむ機会をつくってあげたい」と、おもちゃ作りのボランティアに取り組んだという。

5日は親と15人が参加した。阿部姫麦さん(5)は「ばあちゃんが手伝ってくれた」と大喜び。

おもちゃ作りに夢中

近所の眼鏡店が眼鏡100個を提供した。大人しか子どもは「慣れない生活で疲れ、目がかすむ。新聞を読むしかない。みんなが安心して助かる」と感謝する。

避難住民が視泊している体育館は底冷えが厳しい。運営を手伝う石巻市職員の高橋和さん(38)は風邪をひく人が増えているという。体調変化を気に掛けている。

高砂さん「中央」におもちゃの作り方を教わる子どもたち=5日午前10時30分ごろ、石巻市の石巻中

●佐々木和子さん(72)=石巻市不動町1丁目
学校が始まったら、避難所を出て行かなくてはならない。路頭に迷うのではないかと思うと、不安で眠れない。

●和田英子さん(50)=石巻市卓山1丁目
仮設の風呂が離れた所にあるため、週に1回しか入浴することができない。衛生的な暮らしができるか心配だ。

●佐藤晃雄さん(40)=石巻市門脇町3丁目
着の身着のまま逃げてきたので、配給の服を着ている。洗濯ができず、同じ服をずっと着ているのが気持ちが悪い。

●藤裕治さん(42)=石巻市大街道南4丁目
おにぎりとパンの繰り返しでは、さすがに飽きてくる。せめて煮たものを食べさせてやりたい。

●西和枝さん(63)=石巻市清水町1丁目
食事は隣同士の3家族で持ち寄りの。食料も分け合い、和気あいあいとした雰囲気の中で生活している。

●吉田栄子さん(72)=石巻市大街道東1丁目
津波に襲われ、肩まで水がつかった。ずぶぬれにならなければ来た。すぐ公民館に避難でき必死で逃げた。思い出すだけで、怖くてしょうがない。

●木村ちえ子さん(72)=石巻市大街道東1丁目
学校が始まったら、避難所を出て行かなくてはならない。路頭に迷うのではないかと思うと、不安で眠れない。

●佐藤ゆかりさん(42)=石巻市大街道東1丁目
おにぎりとパンの繰り返しでは、さすがに飽きてくる。せめて煮たものを食べさせてやりたい。

●西和枝さん(63)=石巻市清水町1丁目
食事は隣同士の3家族で持ち寄りの。食料も分け合い、和気あいあいとした雰囲気の中で生活している。

●吉田栄子さん(72)=石巻市大街道東1丁目
津波に襲われ、肩まで水がつかった。ずぶぬれにならなければ来た。すぐ公民館に避難でき必死で逃げた。思い出すだけで、怖くてしょうがない。

湯船漬かり心癒やす

建設会社が設置した風呂に入る避難住民=5日午後1時ごろ、南三陸町の馬場中山生活センター近く

避難住民の多くが、養殖業に携わる。一日も早く再開を目指して地元にとどまり、散乱した漁網をこつこつと片付けを続ける。町が呼び掛けた集団で災避難に応じたくないという。

ワカメを養殖していた阿部さくみさん(61)は「資材は流されてしまった。どこもみんなが大好きで、もう一度漁をやりたいと語る。

北海道に別町のボランティアグループが出張して訪れ、炊き出しをしている。5日の昼食には熟

クのラーメンを振る舞った。

「ありがたい」と話した。

自宅で暮らしながら避難所で食事を取る三浦清さんさん(71)は「温かいものが食べられる

待望の風呂も完成した。福井県の建設会社が日入浴できるようにされた。

資材を運び込み、ユニットバスと露天風呂を設置した。

入った、久々の入浴に住民は「ゆっくり湯船に漬かり、癒やされる」「毎日入浴できるようにされたい」と感謝の声が上がった。